

令和2年度 作物栽培管理情報第9号

令和3年1月発行

大分県中部振興局 集落営農・農地活用班

1. 令和3年産麦 3. 生育期の管理作業（後編）

1) 穂肥の施用 ～収量⇨生育量確保に不可欠です！～

(1) 成分量（裸麦・普通小麦は3kg/10a、醤油用小麦のみ5kg/10a）

成分量 (kg/10a)	基肥	分けつ肥	穂肥	(実肥)	計
窒素 (N)	5	2	3 (5)	(6)	10 (16)
リン酸 (P ₂ O ₅)	8	0	0	(0)	8
カリ (K ₂ O)	5	1	2	(0)	8

(2) 施肥量 ①裸麦・普通小麦 20kg/10a

②醤油用小麦 30kg/10a

※肥料はどちらも化成肥料16-0-16を施用

(3) 施用時期 裸麦は2月下旬～3月上旬、小麦は3月下旬まで

※葉色が薄くなっている圃場は速やかに施用しましょう。

ポイント 生育期間中に行う最後の追肥です。
適期に適量施用し、収量向上を図りましょう。

2) 低温害対策 ～踏圧・土入れにより防止できる障害です！～

- (1) 踏圧の ①目的 : 茎数増加、耐寒(干)性向上、倒伏・凍霜害防止
②時期・回数 : 麦3～4葉期の間に3～4回、生育過剰の圃場は1～2回追加
- (2) 土入れの①目的 : 排水性・除草効果向上、霜からの幼穂保護、無効分けつ抑制、倒伏防止
②時期・回数 : 麦4葉期頃～茎立期までに2回程度、生育過剰の圃場は追加
- (3) 踏圧と土入れの優先順位
①出芽が早く、生育の進んだ圃場 踏圧 > 土入れ
②出芽が遅く、生育の進んでいない圃場 土入れ > 踏圧

ポイント 令和3年産麦は播種後の降水量が少なく、且つ播種後に降雨があった圃場と晴天が続いた圃場とで出芽の差が大きい傾向にあります。低温害は出穂前後に初めて明らかとなります。圃場の生育を適切に調節し、思わぬ収量低下を防止しましょう。

排水溝の整備や圃場内に残る雑草対策も引き続き適切に行ってください。

(気象情報等を発信) 農業情報メール登録募集

1) 配信受付アドレス a11604@pref.oita.lg.jp
右のQRコードからも登録できます→

2) お知らせ頂く内容

(1) 登録を希望される方のお名前または事業所名

(2) 郵便番号

(3) 住所(〇〇市等)または勤務先

(4) 職業(生産者・認定農業者・法人・中山間・市・JA・NOSAI等)

※お知らせ頂きました個人情報、本事業以外には使用しません。

